

伊勢崎賢治先生、大西広先生両者への質問と返答

- (9) 戦争は、人間の歴史そのものです。だからそれはなくならないし、やむを得ないという諦観ではなく、どのように人間はそれを乗り越えるのかという視点でものを考えることはできないのでしょうか？ できるとしたらそれはどのようなもののでしょうか。

伊勢崎 非戦を現実翻訳する作業を未来永劫継続しなければなりません、それには、まず現実を直視することです。日本人、特に、非戦を標榜する人ほど、それが全くできていません。残念です。

大西 そういう考え方は大事だと思います。ただ、それがそう簡単なことではなく、過去の歴史は戦争（明治維新を含む革命戦争や民族統一戦争）があつて初めて進んできたことを十分認識することも重要だと考えます。この困難さの認識がないと今後の戦争回避の事業が簡単なものだと誤解してしまうからです。

- (10) 戦争は国家間だけでなく、テロなど武装集団との戦いもあります。しかしもっと広く考えると、金融資本の集中、広域化（グローバルゼーション）による貧富の格差の増大、環境問題などにつながっていると思います。こういった広く包含する視点から戦争を考える必要があるのではないのでしょうか。小さな部分に限って議論していても、人類が戦争を廃絶し平和な社会を作り出すことは難しいのではないのでしょうか。

伊勢崎 戦争の原因で根幹にあるのは、「資源」とその「交易」です。言うは優しいが、殺しあわないためには、消費生活を根本的に、本当に、変える必要があります。

大西 まったく同感です。私が報告の冒頭にマルクスの考え方を示したのはその趣旨からです。そこで念頭に置かれた「戦争」は「内戦」ですが、マルクスの考え方は国内に非和解放的な対立がある時、内戦が勃発する（歴史変革において必要となる）というものでした。つまり、国内の非和解放的な対立の解消こそが前提ということです。ご趣旨に同感です。